

日野市教育委員会 殿

幼稚園名 日野市立四幼稚園  
幼稚園長名 比留間 千草  
(公印省略)

## 令和7年度教育課程について (届)

このことについて、日野市立幼稚園に関する規則に基づき下記のとおりお届けします。

### 記

#### 1 教育目標

##### (1) 幼稚園の教育目標

人権尊重の精神を基盤に、すべての“いのち”がよろこびあふれる今と未来をつくっていく力の基礎を育み、人間性豊かな幼児の育成を目指す。

- よく遊ぶ元気な子
- ◎よく考え意欲をもって取り組む子
- 豊かに感じて表現する子

##### (2) 幼稚園の教育目標を達成するための基本方針

- ・ 幼児が自分の家族や幼稚園に関わる地域などの様々な人たちと関わり、一緒に体験を楽しむ中で、そこに关わるすべての人たちがつながりや幸せ感を感じられる教育活動を推進する。
- ・ 幼稚園教育において育みたい資質能力である「知識や技術の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力、人間性等」を、遊びを通した総合的な指導の中で一体的に育むように努め、自分らしさを大切にしながら、生きる力の基礎を育成することを目指す。
- ・ 幼児が健康かつ安全で幸せな生活が送れるよう、家庭と連携しながら基本的な生活習慣や態度を身に付け、自立と協同の基礎を培うとともに、幼児期にふさわしい心と体づくりを推進する。
- ・ 幼児自ら気付き、考えることを基盤にして、規範意識や道徳性の芽生え、知的好奇心や探求心を培う指導を推進する。また、意欲をもって取り組めるように、幼児一人一人の実態を適切に把握し、個の発達や特性にあった援助を行う。
- ・ 多様な人との信頼関係を基盤にし、お互いの違いや良さを知り、豊かに関わる体験を重ねながら、自尊感情や相手を思いやる心を育む。また、人や動植物など、生きるものとの触れ合いを通して、生きる喜びや生命(いのち)あるものの尊さを知り、大切に作る気持ちを育む。
- ・ 地域人材の協力を得たり、環境を活用したりすることを通して、身近な自然、社会、伝統、文化、郷土、スポーツなどに対する幼児の興味や関心が高まるように、直接的、具体的、連続的な生活体験を重ね、豊かな感性や社会性を育む。
- ・ 小学校と幼稚園、保育園との円滑な接続を目指し、教師・保育者間で互いに理解し合う情報交換を行い、交流や就学に向けての活動を計画的に実施して、学びの連続性を活かした幼児教育の充実を図る。

## 2 指導の重点

### (1) 教育課程編成、実施に関わる指導の重点

#### 4歳児

- ・全ての教師との信頼関係を基に、一人一人が安心して自分の思いを表情や態度や言葉で表し、人と触れ合う心地よさや親しみを感じながら園生活を楽しむ。
- ・安定した園生活を送るために基本的な生活習慣などを身に付け、自分のことを自分でできるようになることを喜ぶ。
- ・様々な環境に自ら関わる中で、おもしろそう、やってみたいと思ったことを実現する楽しさを感じる。
- ・みんなで過ごす楽しさを感じていく中で、心地よく過ごすための大切な約束やルールがあることを知り、自分なりに動こうとする。

#### 5歳児

- ・一人一人が遊びや活動の中で、自分で決めたことに向かって取り組み、つまずきを経験しながら乗り越え、満足感や達成感を味わう。
- ・友達と共通の目標に向かう中で、思いや考えを「話す・聴く」という経験を積み重ね、一緒にやり遂げる喜びを味わう。
- ・遊びや生活の中での様々な直接体験を通して、いろいろなことに興味や関心をもち、考えたり試したりしながら物事に関わるおもしろさを感じる。
- ・友達との触れ合いを通して、互いの個性を認め合い自他を大切にする気持ちや、場面や状況に合った言動を自分なりに考えて行おうとする態度を身に付ける。

### (2) 環境の構成

- ・幼児一人一人が安心して過ごす中で、子ども同士が互いの動きや言葉を感じながら人と関わる力が育まれるよう、幼児理解を深め、職員間で共通理解を図りながら指導にあたる。
- ・様々な人と関わる中で、自他を知り、互いを認め合い受け止め合う関係を築いたり、刺激を受けたりできるよう、地域の施設など様々な人と交流できる場を積極的に設定する。
- ・幼児が試したり工夫したりしながら遊びに取り組みめるよう、発達や実態に即したもののや、興味関心の刺激になるような環境を提示していく。
- ・幼児が喜んで自分の気持ちや経験したことを話したり、友達や先生の話聴く楽しさや大切さを感じられるよう、一人一人の表現を認めたり仲介したりし、幼児が主体となって伝え合う環境をつくっていく。また、遊びや日の振り返りなど、意図的に話し合う場面を設定し、豊かな言語活動が展開されるようにする。
- ・4、5歳児が合同で過ごす中で、年齢相応の経験を担保しながら、互いに刺激し合ったり経験を広げたりできるよう、職員間の連携を深め、環境構成・指導の工夫に努めていく。
- ・幼児が体を動かす楽しさを感じたり、いろいろな動きを経験したりできるよう、学校2020レガシーを継ぎながら、運動遊び・コオディネーションを計画的に取り入れていく。
- ・自然に関わり豊かな感動体験ができるよう、地域の自然を活用した園外保育の機会を充実させていく。
- ・食育活動が充実するよう、土づくりや食の循環を直接体験できる機会を設けたり、地域の人材を活用したりしていく。
- ・特別な支援を要する幼児が安心して過ごせるよう、個別指導計画を基に職員の共通理解を深めたり関係諸機関と連携を図ったりし、きめ細やかな支援にあたっていく。また、子どもの日々の様子やよさ、育てたい方向性などについて保護者と共有し、共に育てていく体制を築いていく。
- ・幼児が自分の住んでいる地域や国、身近な世界の国や人の存在に関心をもてるように、日本や外国の絵本、うた、国旗などに親しむ機会を意図的、計画的に設ける。

### (3) 開かれた幼稚園づくりの推進

- ・保護者と直接対話できる機会、Web サイト・Web ページやお便りなどの通信手段を利用して、幼稚園の様子や保育の中で大切にしていること、育てていきたいことをわかりやすく伝えることに努め、園全体で家庭との相互理解や連携を図る。また、保育の中に在園児や修了児の保護者の力を取り入れ、幼児の活動の充実につなげていく。
- ・地域の方が幼稚園を利用できる機会を通して、幼稚園の教育や幼児の姿を地域に知らせ、理解と協力を求めていくとともに、地域の中で幼稚園が温かく見守られる存在になるよう努めていく。未就園児とその保護者に関しては、幼稚園を身近に感じてもらえるようにする
- ・感染症防止対策、不審者対応を含めた危機管理意識を高めながら、安全教育を計画的・多面的に行ったり、近隣小学校と連携して防災訓練等を実施したりしていく。また保護者と安全に対する知識や意識を共有できるよう情報を発信していく。
- ・保護者がよりよく子育てに向き合えるように、保育カウンセラー制度を有効に活用していく。
- ・地域の人材を活用し、幼児が興味・関心の幅を広げ、豊かな体験ができるようにする。
- ・小学校との円滑な接続を目指し、交流活動においては、地域の保育園と共にそれぞれの発達を踏まえた互恵性のある活動となるように、互いの教育内容や、実態等を理解しあう場を設けていく。就学に向けては、一人一人が安心して新しい生活に入っていけるように情報を共有する時間を設けていく。

### (4) その他

- ・園内研究の主題を「幼児が遊びや人との関りを十分に楽しむための教師の援助と環境構成の工夫」～幼児一人一人の個性や特性を受け止めながら～とし、幼児の興味関心の刺激となるような魅力的な環境構成の工夫や教師の援助方法を探る。
- ・幼児が自分の“からだ”や“きもち”の大切さに気付き、大事にする気持ちや態度が育まれるよう、教師が研修を積み重ね、計画的に生命（いのち）の安全教育を行っていく。また指導の意図や内容について保護者にも周知していく。